

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401467		
法人名	口加メデイカルサービス		
事業所名	グループホーム たちばな		
所在地	長崎県南島原市加津佐町己2151-5		
自己評価作成日	平22年11月29日	評価結果市町村受理日	平成23年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成22年12月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>危険でなければという条件付きではあるが、入居者様の意思を尊重し、できる限りその日、そのとき、したいことを自由にできるように心がけている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>島原の海沿いを車で走っているとホームが見えてくる。ホーム内は明るく、2つのユニットを結ぶサンデッキからも暖かい光が差し込んでくる。両ユニットの管理者を中心に職員は結束しており、職員の離職もほとんどなく、新人職員の育成も丁寧に行われている。職員は「ご利用者の喜んでもらう顔(笑顔)を見るのが嬉しい」と、手作りの料理、おやつを愛情込めて作られており、「今日のご飯は何?」と楽しみに聞いてこられる方も多い。食欲も旺盛で、毎日の愛情料理も皆さんの元気の秘訣となっている。一緒に買い物に行く事もあり、そこで馴染みの方々とご対面し、楽しい会話に花が咲くこともあり、「地域で暮らす視点」の大切さを職員も実感している。母体の病院との連携もとれており、週1回の訪問看護を受けたり、日常の相談も随時行う事ができている。健康面の報告は適宜ご家族に行っているが、休止していた「ご家族へのお便り」を、昨年の外部評価以降、開始することができている。毎朝、明るい挨拶「おはよう」から始まっているが、ご利用者がお布団の中から手を広げ、笑顔で待ってくださる姿があり、「家族ではないけれど、家族の代わりにはなれる・・・」と語って下さる職員表情にはプロを感じ、真のケアが行われているホームであった。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム独自に、家庭的な環境、地域を重視しその人がその人らしく地域のなかで日々暮らし続けることを目標に理念をつくり、支援している。	「健康で明るい、自分らしい生活の支援をいたします」という理念のもと、ご利用者の思いを把握し、ご利用者のしたいことができる支援を心がけている。外出等の楽しみごとを意識して増やしており、職員も一緒に楽しませている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の一員として、地域のふれあい祭等にも積極的に参加している。また、入居者様と共に散歩を兼ねて隣人宅の温室を見学させていただいている。当施設の花壇の世話もして頂いている。	お散歩や外出の時に地域の方々とお会いする機会もあり、ご利用者も馴染みの方々楽しい会話が弾んでいる。町内会に加入し、年度会議や草取り、空き缶拾い等に職員が参加しており、お祭り、おみこし見物等の地域行事には、ご利用者も行かれている。	ホーム行事に地域の方が参加する機会は少ない。他の関連施設にて保育園児との交流はあるが、当施設との直接の交流はなく、ホームを知ってもらうためにも、保育園等との交流を図っていきたく考えられている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議での自治会代表の方との会話にて、認知症についての会話はある手度、地域に対して活かしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は市担当職員、利用者家族、地域住民等で構成、開催している。会議では現状の報告、外部評価の結果報告等をもとに話し合い、意見等議事録に残し、サービスの向上に活かしている。	2ヶ月に1回、サービス向上に向けた話し合いが行われている。外部評価結果も報告し、“終末期の意向”等に関して、「家族との話し合いは必要」という意見を頂け、「面会時に話し合い、意向の確認を行う」事を報告した。災害対策等の意見交換も行われており、有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者に参加してもらい、会議において意見交換を図ったり、事業所内を見学してもらったりしているが、サービスの質の違いからなかなか思うような成果がでていない。	市の担当者に運営推進会議に参加して頂き、意見交換をしている。疑問点などは会議の時に相談しているが、担当の方は話しやすい方であり、親切に対応して下さっている。近隣の学校では職場体験学習が行われており、生徒の受け入れも行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について各職員は理解しており、拘束の無いケアを実施している。玄関施錠については、外に出たい希望があれば職員見守りのもと開錠するようにしている。	身体拘束は行っていない。小さな音一つ聞き渡さないよう職員は気を配り、転倒防止に努めている。朝礼時にも、身体拘束は行わない取り組みを共有し、ご本人の不安な気持ちに寄り添い、散歩等に行っている。表の玄関は車の通りが多いため施錠しているが、裏口の玄関は開けており、自由に外出できている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止シンポジウム等の参加にて各職員が虐待防止の重要性について理解を深め、現場に活かしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は制度は一応理解はしているが、対応は管理者がするようにしているため、職員が話し合い等に参加することはない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の説明、改訂等の際は理解してもらえるよう説明し同意を頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	できていない。面会時に意見、要望等聴くよう心がけているが、意見等少ないように思う。	開設以来、ご家族とも長年のお付き合いとなっており、ご家族の来訪時にお話を伺い、管理者も個別に相談を受けている。休止していたお便りも再開され、写真も同封し日頃の近況報告を行っている。ご家族より、リハビリに対する要望を頂き、PTIに相談する等、意見が反映できるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや申し送りノートの活用にて意見を集め共有している。	22年4月からは、毎月1回の会議を朝礼時に行うようになり、更に細やかな意見交換が行われるようになった。職員の意見は日々の業務で実施され、更に意見を聞いている。ご利用者に楽しんで頂きたいと、年間行事や忘年会等については、職員からの活発な意見やアイデアが盛り込まれた内容となっている。	職員それぞれ個性があり、お力を持っている。今後も職員個々のお力を発揮していける機会を作るためにも、役割分担をしながら、業務の見直しや企画など、責任を持って取り組んでいく予定である。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	解らない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	解らない		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	解らない		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	毎日の生活のなかで本人の要望等聴くよう心掛けている。入居時に聞けなかった事も毎日の生活のなかで安心して貰えるような関係作りのなかで本人の要望等聴くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、何が必要か、見極め、対応出来ていると思う		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活のなかでお互いに支えあう関係ができています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係も本人を真中に支えあう関係ができてきています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人的にはではないが、近所の祭り等に参加し知人に会う、など馴染みの人、場所等関係が途切れないよう支援している。	ご利用者の馴染みのお寺の住職様が、毎月お経を唱えられる為に来られている。ホーム備え付けの電話機にて、知人や親類様に電話をかけたり、実家に大きな木蓮の木があり、その花を職員と共に見物に行くなどの支援が行われている。ご家族に協力して頂き、美容院やお墓参りを継続している方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士、気の合わない同士等関係を把握し支援に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	小さな町でいつでも合える関係でいられるよう支援している。いつでも相談してもらえるよう、声掛けしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活のなかで一人一人の希望等、把握に努め、本人本位で対応している。	ご入居前に生活歴、家族関係、趣味や好き嫌い等の情報をできるだけ伺い、ご利用者が望む支援と照らし合わせながらその方に適した支援を行っている。生活を共にする中で、食べ物の好き嫌い等伺い、食べ物のなかった時代の話等、ご本人から伺っている。	面会時等に情報収集するように努めているが、ご家族も知らないことがあり、ご本人にも伺っているが、まだ情報不足していると感じている。今後も、意識してお話する時間を設けていく予定である。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様、もしくは家族様より、生活歴等の情報を収集し、よりよいサービスの提供に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の一日のリズムを観察・記録することにより、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様・家族様と話し合い、情報を収集し、現状に即した介護計画を立てている。しかしまだ改善の余地があると思われる。	アセスメントを基に計画作成者が原案を作成し、ご利用者、ご家族のご意見を基に、担当者を中心として職員全員で話し合いながら作成し、見直しをしている。訪問看護師の意見もプランに盛り込み、ケアに活かしている。	ご家族から伺った意見等、計画に盛り込まれているが、課題、目標の欄に、お困りの内容がそのままの言葉で表現されている。ご本人のプランという視点で、ご本人の力が発揮されるようなプランとなるよう、表現の仕方を含め、検討されてみてはいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の日常の状態を常に記録し、職員間で情報共有を行いながら適切なケアを模索していくように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	なるべく本人様の意見に沿ったケアの実施に取り組んでいる。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当施設の近隣に住んでいた方が多く、自治会の行事等に職員と共に参加し豊かな暮らしをたのしめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に協力病院をかかりつけ医として頂いているが、専門的な受診等は家族様と話し合い、適切な医療が受けられるような支援をしている。	定期的な受診の結果により、即日電話報告か後日面会時に報告するか等、ご家族の希望に応じて報告が行われている。一方のユニットでは、協力医療機関以外の通院介助も行われている。訪問看護師と連携をとり、看護師が傷の状況等を写メで送り、医師からの指示を頂く等、迅速な対応が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と協力し、日常的に助言・アドバイスをして頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院や他の施設と情報を交換し、適切なケアがおこなわれるよう関係作りは出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期に向けた指針の説明をおこない、家族様に同意していただいている。しかし、実際重度化された場合、入院を希望されることが多い	「看取りに関する指針」を作成し、終末期に向けて不安を取り除くケアができるよう、ご家族に「指針」を説明し同意して頂いている。看取りケアを行う方針であるが、病院への転院を希望される方も多い。急に状態悪化される方もおられ、その都度、意向の確認が行われている。	新任職員も含め、職員間で今一度“終末期ケア”について考え、理解することの必要性を感じている。終末期ケアに向けて、チームで支援できる体制強化を目指し、更なる取り組みに期待していきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応のマニュアルを作成し、緊急時に備えているが、すべての職員に実践力が身につけているとは言いがたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難誘導の協力体制は出来ているが、訓練回数が不足していると思われる。	自主訓練と合わせて、消防署の職員に協力して頂き、昼間を想定した避難訓練や火災通報装置の使い方等の確認を行っている。隣近所の住民の方には、当日に訓練がある旨をお伝えしていると共に、火災時には通報して頂けるようお願いしている。災害時は同法人の老健施設に避難する等、協力頂ける体制となっている。	

自己	外部			自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている		入居者様のプライバシーを損ねないよう声掛け、気配りをおこなっているが、特に適さない言葉も出るときがあり、常に意識する必要があると思う。	ご本人のペースを尊重し、食事や入浴時間をずらす等の支援が行われている。言葉かけにも配慮し、表情を見ながら、その時の状況に合わせた対応を心がけている。個人情報に関する話しをする時も、他のご利用者に聞こえないよう配慮している。全職員が情報漏洩をしない等、人権意識の徹底ができています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている		入居者様の意見を尊重し、なるべく利用者を選択肢をえらんでもらえるようなケアをおこなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している		入居者様の意見を尊重し、自分のしたいことが出来るような環境に勤めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している		身だしなみを整える支援はおこなっているが、オシャレまでは支援できてない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		職員と入居様が協同して食事を作成、かたづけ、食事することで入居者様の好みや力も把握でき、楽しい食事になっていると思う	職員は、食べることの大切さを意識して、喜んで頂けるような食事作りを心がけており、完食される方が多い。忘年会等の施設行事では、お鍋を囲んで楽しいひと時を過ごして頂いている。工夫を凝らした職員手作りのおやつも好評で、ご利用者に喜んで頂いている。	食材に関しては業者からの納入形式である。時には、ご利用者と一緒に買い物に出かけることで楽しみも増え、地域の方々との交流もできるのではないかと考えている。今後も、検討していく予定である。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		入居者様それぞれの食事の状況を考え、粥や刻み食等食べやすいように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている		本人の力に応じた口腔ケアができています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にお声掛け・トイレに誘導する事により、失敗の回数を減らすように努めている。	一人ひとりの排泄感覚を把握し、できるだけトイレで排泄して頂けるよう支援している。排泄状況を記録に残し、排便の周期を見極め誘導したり、落ち着かれない状況や表情を見て、早めにお声かけを行っている。異性の職員の対応を嫌がられる時には、同性職員にて対応したり、安全に配慮して、2人介助を行う等の配慮もされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便回数の記録をおこない、訪問看護師と相談、個々に応じて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴希望があれば入浴日でなくても入浴できるように支援している。	月・水・金と火・木・土の2種パターン(午前)から選択できるようにしているが、希望により変更も可能となっている。予定外の入浴希望にも対応している。入浴を好まない方には声かけを工夫したり、足浴を実施しお湯の気持ち良さを実感して頂き、浴室へ誘導するなどの工夫も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	極力本人様の休息したいように支援しているが、昼夜逆転等がおきないよう時々お声掛けして、家事のお手伝いをお願いする等、日常生活習慣を続けていただくよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	協力病院の医師の指導の下、服用薬の用法・容量に注意し、服薬後の状況変化があった場合はすみやかに病院へ電話・受診を実施する体制が出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、食事作り、配膳等積極的に参加してもらい役割を持ってもらうことで張り合いのある生活が過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望に添えるよう職員と共に外出し、買い物出来る機会を作っている。	ご利用者全員で、毎年初詣に橘神社へ出かけている。ご利用者の心身状況に合わせて、全員での外出が困難となってきたため、買い物やお祭り見学、ドライブ等、少人数での外出回数を多くする取り組みが行われている。お天気の良い日は、外で日向ぼっこをしたり、ホーム周囲のお散歩を楽しんで頂いている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお小遣い等は事務所にて管理しているが、家族様との相談の上、本人様が安心されるよう財布・金銭を個人でもっていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	当施設の備え付けの電話にて知人・友人と連絡を取られる方や、携帯電話を所持され、家族と連絡を取られる方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境面においては現状の設備を用いて最良の快適な環境を作るよう努めている。	季節に合わせて冷暖房器具にて温度調整を行い、快適に過ごして頂いている。トイレの入り口が、男性用と女性用が同じであるが、お互いのご利用者が声かけをしながら上手に利用されている。リビングでは、安楽に過ごして頂けるよう、クリスマスにプレゼントされた“褥創防止用の円座”を使用されている。お天気の良い日は、中庭のテラスでお茶を楽しんで頂いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各入居者様の個室にて一人になる居場所がある。また、利用者同士で居室に招待し、談笑される場面もみられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人様がいままで使ってこられた湯のみ等の生活用品は出来るだけ持参して頂き、本人様の以前の生活がそのまま続けられるよう配慮している。	タンス、テレビ、ぬいぐるみ、冷蔵庫、電気治療器、イスなど使い慣れた物を持参して頂いている。ホームの裏手には畑や山があり、居室のベランダから外の景色を眺められている方もおられる。ご家族が持参されたお花が枯れないよう職員が水やりを手伝っている。居室の入り口には、職員手作りの折り紙(クリスマスのブーツ)が飾られていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各個室より共有スペースの食堂、もしくは玄関に通じる経路には手すりが備えてあり、自立した生活が送れるように工夫してあると思う。		

事業所名: グループホーム たちばな

作成日: 平成 23 年 1 月 25 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	終末期ケアに対する理解不足、職員間の認識の統一ができていない	職員間で終末期ケアについて話し合い、理解を深め、体制強化を図る。	体制強化のため、定期的に勉強会、ミーティング等を行い、職員間で考え共通の意識で終末期ケアに取り組む。	12 ヶ月
2	23	一人ひとりの思いや暮らし方の希望の把握に努めている。	本人様との会話のなかで、本人様の思い、暮らし方の希望の把握をする	毎日の生活のなかで積極的に会話し本人様の希望等の把握に努め、記録、職員全員の話し合い、希望可能なものか検討する。	12 ヶ月
3	2	ホーム行事に地域の方の参加が少ない	利用者が地域のかたと交流できる場面をつくる	保育園児に遊びにきてもらう、自治会の老人クラブの方とお茶会を開く(少人数から)など始めたいと考えている。	12 ヶ月
4	26	表現の仕方の検討する	指摘あった表現の仕方はすぐに改善可能なためすぐに変更する	すぐに改善した	1 ヶ月
5	11	業務の見直し、企画など職員の力が発揮できるよう取り組んでいく予定である	それぞれの職員が自分の力を発揮できる職場をつくる	それぞれの職員が業務の見直し、企画などに力を発揮できるよう役割分担を行う	12 ヶ月

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
6	40	食材は業者からの納入になっているため買い物に出ることはない、今後検討の必要がある。	誕生会の行事として職員と利用者がメニューを一緒に考え、食材を買出しにでかける	毎月の誕生会の行事として利用者と職員が一緒にメニュー作り、買物、料理、かたづけなどをする	12 ヶ月
7					ヶ月
8					ヶ月
9					ヶ月
10					ヶ月
11					ヶ月